

# 第3章 八王子の歴史文化の特徴



## 1. 八王子の歴史文化の考え方

多様な自然環境を持つ八王子の歴史文化を捉えるためには、地形や自然との関わりの中で、「人々が暮らす地域」ごとに歴史文化を捉え、地域の歴史文化の特徴を把握した上で、八王子全体の歴史文化の特徴として捉えていく必要があります。

「人々が暮らす地域」については、明治22年(1889年)に市制・町村制が施行された時の行政単位に該当する合併前の10町村としました。現代の八王子市を形成する上で切り離すことのできない10の町村は、地域の歴史文化を捉える“生活圏”“文化圏”とも考えることができます。

この10の町村を「地区」として、それぞれの地区について地区別ワークショップでの意見も参考にしながら、地区ごとの歴史文化を知るための手掛かりを“地域の歴史文化を知るためのキーワード”としてまとめました。

## 2. 歴史文化の地区ごとの傾向

市内の歴史文化について10地区で整理すると、次のような傾向が見られました。

### 旧八王子地区

- 政治、経済、学術等の分野で活躍し、事績を残した人物ゆかりの文化財が多い
- 寺社が多く所在し、祭礼やお祭りなどの地域行事が多い

### 小宮地区

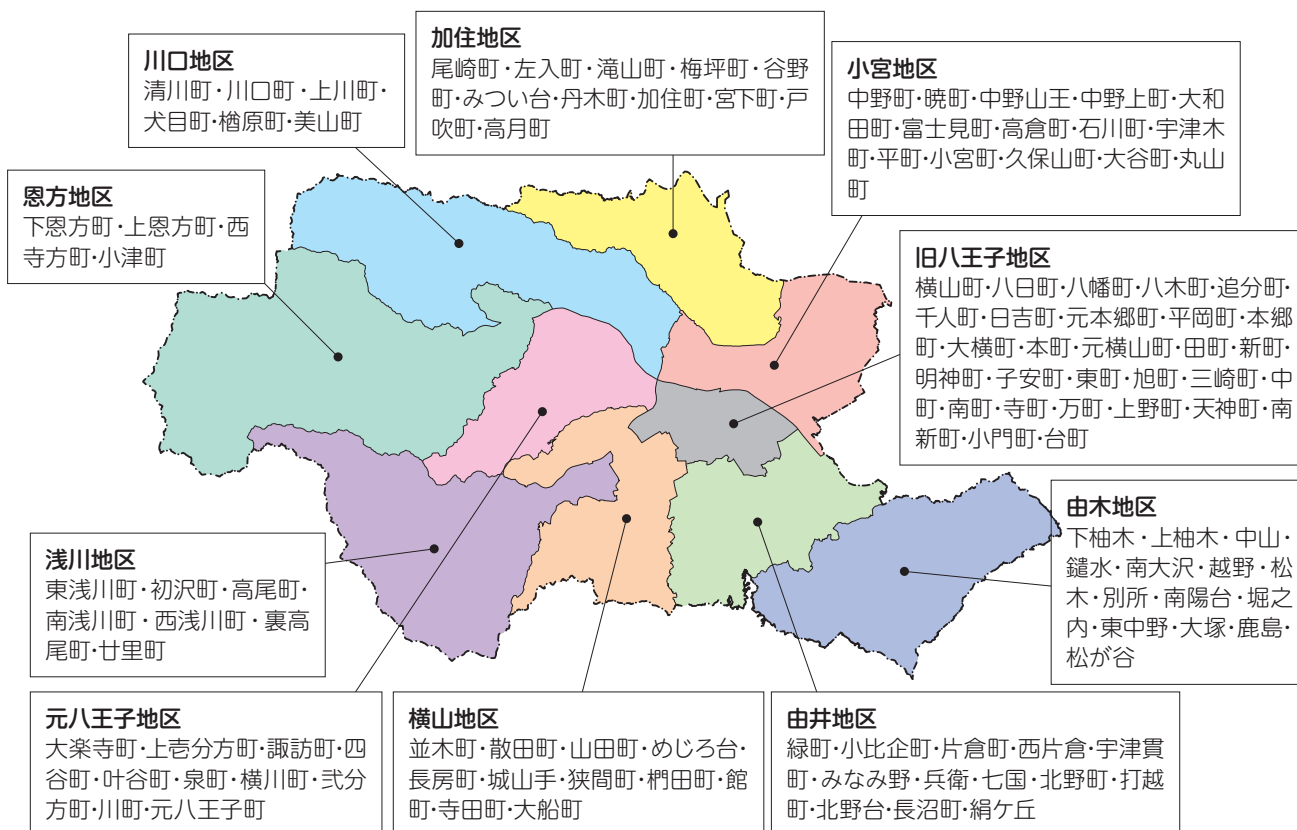
- 北大谷古墳（多摩地域最大の古墳）や中田遺跡など、特徴的な遺跡がある
- 寺社や祭礼などが多く、獅子舞の伝承もある

### 横山地区

- 船田石器時代遺跡や櫛田遺跡が所在
- 寺社や中世武士の居館跡、城館跡が多く所在
- 石仏、石碑、板碑が多く残る

### 元八王子地区

- 八王子城跡を中心として、それに関わる文化財が数多く所在
- 湧水が豊富で、石仏や板碑、道標などの石造物や寺社も多い



現在の町区分を旧市町村界にあてはめ、10地区に割り当てて地区界としたため、現在の町会区分や旧町村界とは必ずしも一致しない。なお、町名の記載に際して丁目の表記は省略した。

10地区の位置と町名

### 恩方地区

- 古案下道（陣馬街道）が東西を貫き、浄福寺城跡や石仏、板碑などが残る
- 民俗行事「上案下のセエノカミ」や郷土芸能「小津の獅子舞」が伝承

### 川口地区

- 谷戸や湧水が自然のまま残る
- 川口エンドウや宗兵衛裸麦などの特産資源がある
- 郷土芸能「今熊神社の獅子舞」「田守神社の獅子舞」「山入の籠獅子舞」が伝承

### 加住地区

- 滝山城跡を中心として、それに関わる文化財が数多く所在
- 高月の田園風景（都内最大の田園）が所在

### 由井地区

- 寺社や銘木、遺跡が多く所在
- 城跡や丘陵の自然を利用した公園が多い

### 浅川地区

- 小仏関跡と東西を結ぶ旧甲州街道（甲州道中）が所在
- 高尾山を中心として、それに関わる文化財が数多く所在
- 明治の森高尾国定公園を背景とした豊かな自然環境と景観がある

### 由木地区

- 多摩ニュータウン遺跡群を中心に遺跡が数多く所在
- 丘陵や谷戸、里山などを活用した公園が多く所在

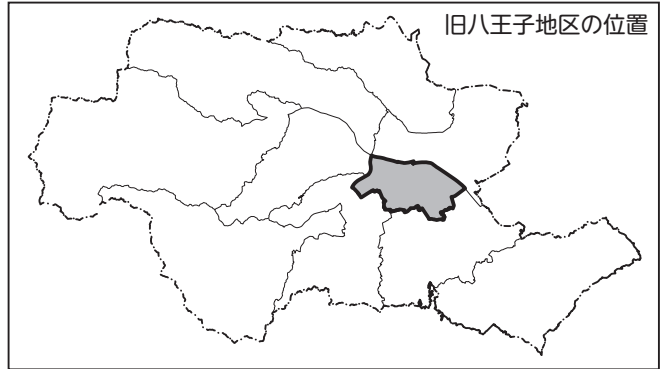
### 3. 地区の歴史文化を知るためのキーワード

#### (1) 旧八王子地区

##### ア 地区の概要

本市の中央部、八王子盆地の中に位置する旧八王子町の区域で、地区の北部には浅川が流れています。大正6年(1917年)、八王子町は、市制施行によって八王子市となりました。

近世以降、東西南北の街道が交差し、織物産業や商業を中心として発展し、地区全体に商業地域が広がり、住宅地が密集し、八王子市内で最も都



市としての要素が強い地区となっています。現在は、中央部を東西に甲州街道(国道20号)、南北に国道16号が走り、陣馬街道や秋川街道、野猿街道などの起点となっています。また、甲州街道の南側にはJR中央線が走り、交通の面でも中心となっています。

旧八王子地区には、平安時代末期から鎌倉時代にかけて<sup>むさしのくに</sup>武蔵国で活躍した武士団、武蔵七党の一つ、横山党の根拠地があったと伝わっています。江戸時代には、落城後の八王子城下周辺の治安維持と、その後の、江戸の西の防衛のために千人同心が配置されました。千人同心は日光勤番や<sup>えぞち</sup>蝦夷地の開拓、さらに長州征伐など多方面にわたり、江戸幕府の警備・防衛などの一端を担ってきました。

また、旧八王子地区には多くの寺社が残っており、伝統的な祭礼が執り行われています。

##### イ キーワード

#### 甲州街道の宿場町

北条氏照築城の八王子城下にあった横山・八日市・八幡の三宿は、徳川家康の治世に現在の中心市街地に移転され、その後、十五宿が増えて八王子宿として発展しました。浅川の洪水から八王子宿を守るために大久保長安らが築いた「石見土手」の一部が今も残っています。八王子宿は江戸と<sup>かいのくに</sup>甲斐国(現山梨県)をつなぐ甲州道中最大の宿場町となり、生糸や炭の運送、富士講や高尾講の講中などで大いににぎわいました。宿場の町割りは、街道沿いに多くの家を配置



石見土手

するために間口は狭く奥行きが長い短冊状に割り付けられました。第2次世界大戦の八王子空襲では市街地の8割が焼失しましたが、現在の中心市街地の店舗や建物の奥行きにその名残を見ることができます。

## 千人同心ゆかりのまち

八王子周辺の警備や治安維持の役割を担った千人同心は、甲斐武田氏の旧臣を中心として幕府に組織されました。その後、日光勤番(火の番)や蝦夷地開拓などの幕府の職務を担うようになりました。江戸時代の中ごろを過ぎると幕府から地誌編さんが命じられ、千人同心組頭塩野適齋・植田孟縉らが調査・執筆に参加しました。そのほか、各家の記録なども多く残されるようになりました。また、西洋の学術・文化・技術といった文化的な教養を備えた者も多く輩出しました。



桑都日記稿本

織田氏の進攻により八王子に逃れてきた武田信玄の娘松姫は、後に武田氏旧臣の千人同心たちの精神的なよりどころになりました。

## 絹と織物

八王子は古くから生糸の産地として養蚕が盛んで、「桑都」という美称で呼ばれていました。江戸時代の初期には織物を扱う市が開かれ、中期には江戸近郊という立地を活かして織物の一大集散地となり、さらに生産地としても大きな発展を遂げました。八王子織物の特徴は、時代のニーズに合わせた織物を提供し続けてきたことです。近代以降、洋装化にあわせてネクタイ地を生産するなど織物のまちとしてさらなる発展を遂げました。時代の変化とともに主力製品が変わっていく中で、守り続けられてきた伝統的な技法が「多摩織」として昭和55年(1980年)に通商産業大臣(現経済産業大臣)から伝統的工芸品に、昭和57年(1982年)に東京都知事から伝統工芸品に、それぞれ指定されました。



多摩織の反物

また、明治から昭和初期にかけて、織物のまちとしての繁栄を背景に、花柳界も発展しました。現在では、多摩地域に唯一残る「八王子花街」として、八王子芸妓が芸者文化を伝えています。



## 旧八王子の信仰と伝統文化

現在、8月の上旬に行われている「八王子まつり」には多くの山車が勢ぞろいし、山車ごとの囃子も祭りのにぎわいを引きたてています。八王子の山車祭りの起源は、江戸時代の多賀神社の「上の祭り」と八幡八雲神社の「下の祭り」までさかのぼります。

天平宝字3年(759年)、淳仁天皇の妃の安産祈願のため創建されたと伝わる子安神社(明神町)をはじめ、各神社で行われる祭礼なども年中行事として大切に受け継がれ、市守大鳥神社の「酉とりの市」や永福稲荷神社の「しょうが祭」、浅間神社の「だんご祭」などの地域の特色ある祭りは、古くから人々に親しまれています。

また、日吉八王子神社の境内には、江戸時代に浅川で捕れた鮎を幕府に献上していたことを伝える「あゆ塚」が建っています。



八王子消防記念会の木遣

## (2) 小宮地区

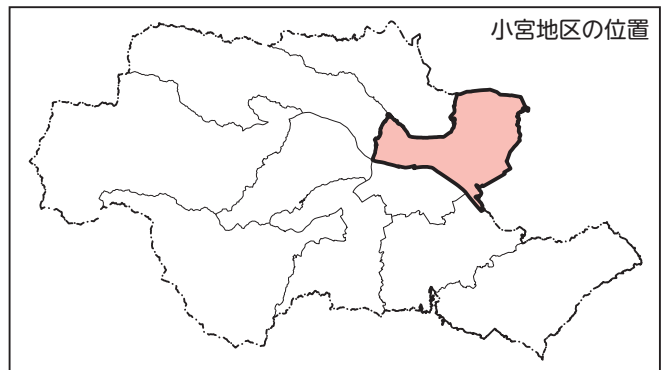
### ア 地区の概要

本市の北東端に位置し、加住北丘陵の先端部から多摩川にのぞむ旧小宮町の区域です。南北にJR八高線が走り、北八王子駅と小宮駅があります。旧小宮町は、昭和16年(1941年)に八王子市と合併しました。

小宮地区では、旧石器時代以降の数多くの遺跡が発掘されました。また、平安時代の法令集といわれる延喜式に見られる勅旨牧(牛馬の放牧地)

であり、武蔵4牧の一つとされる石川牧があった場所と考えられています。また、近代になると製糸工場が稼働するようになり、戦後は工業団地が造成され、多くの企業・工場が進出しています。

小宮地区は農業が盛んで、八王子市の特産物となっている高倉ダイコンは、耐病性に優れ、生産量が安定した品種です。かつては、織物工場で働く女工さんの食事に出されるたくあんを作るために重宝されたそうです。



小宮地区の位置



## イ キーワード

## 小宮の遺跡と遺物

小宮地区は旧石器時代から中世までの遺跡が、多く発掘されています。弥生時代の終わりから古墳時代初頭に造られた四方を溝で囲んだ墓跡を「<sup>ほうけいしゅうこうぼ</sup>方形周溝墓」と呼ぶきっかけとなった<sup>うつきむかはら</sup>宇津木向原遺跡や、古墳時代の東国地域の代表的な集落遺跡である<sup>なかつた</sup>中田遺跡、多摩地域最大の円墳である<sup>きたおおや</sup>北大谷古墳などがあります。<sup>ふじみちやう</sup>富士見町遺跡、宇津木向原遺跡からはガラス玉が出土しています。宇津木向原遺跡で出土した鏡は、関東で初めて発見された弥生時代の鏡です。中世の<sup>こみやまち</sup>小宮町遺跡には、堀で囲まれた館跡と考えられる遺構があり、この地域を支配していた武士の存在をうかがわせます。



北大谷古墳

## 多摩川の渡し場

江戸時代から昭和初期まで「<sup>たいら</sup>平の渡し」と呼ばれる渡し場がありました。当時の平村と対岸の<sup>おおがみ</sup>大神村（現昭島市）を結ぶ渡船があり、古川越道の往来に利用されていました。また、江戸幕府への献上鮎「玉川鮎」もこの渡し場を通して運ばれていきました。日光勤番のために八王子を出発した千人同心もこの渡し場を通して日光に向かったといわれています。



平の渡しのあった場所

渡し場は昭和7～8年（1932～33年）ごろに廃止されました。現在、旧渡船場の近くには<sup>おおぜき</sup>大堰が設置されていますが、往時の風景をしのぶことができます。付近には、樹齢550年と推定される天然記念物の「平町大蔵院のイチョウ」があります。

## 織物の生産

『新編武蔵風土記稿』に、多摩郡石川村の産物として「石川糸…細糸の上品なり…珍重するところなり」との記述があり、古くから生糸生産が行われていたことがわかります。幕末、横浜開港によって諸外国との貿易が始まると、生糸は外貨獲得のための花形商品となり、八王子は生糸の一次生産地として、また、関東各地から横浜への輸送の中継地として栄えました。



のこぎり屋根の建物

生糸産業を支える工場として、小宮地区には、<sup>はぎわらせいしこうじやう</sup>萩原製糸工場（後の片倉製糸紡績八

王子製糸場) や生糸を撚り合わせた撚糸を染める染色工場が稼働していました。この周辺では、現在も織物業や染色業が営まれ、「織物のまち」の伝統を守り継いでいます。浅川に架かる萩原橋の名称は明治34年(1901年)に萩原製糸工場の設立者萩原彦七が架設したことにちなんでいます。

## 小宮の信仰と伝統文化

かつては大横町にあり、現在の太谷町に移転した大善寺には、市内に現存する最古の梵鐘、寛永3年(1626年) 鑄造の「大善寺銅造梵鐘」があります。「大善寺のお十夜」は、江戸時代、八王子城落城の戦死者の霊を慰める法要として始められました。また、境内には、桐生白滝神社から機業の繁栄の守護神として勧請した機守神社があり、現在も市内の織物関係者などが列席し祭礼が執り行われています。



石川町龍頭の舞

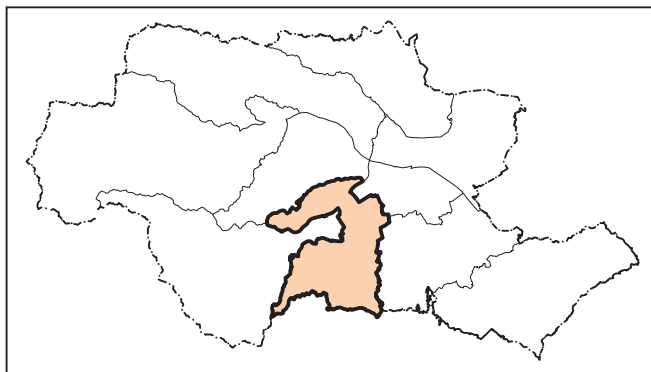
御嶽神社の祭礼には、五穀豊穰・悪疫退散を祈願して、「石川町龍頭の舞」が奉納されるなど、多くの伝統芸能や年中行事が地域の人々によって継承されています。

## (3) 横山地区

### ア 地区の概要

本市の南部に位置する旧横山村の区域です。旧横山村は、昭和30年(1955年)に八王子市と合併しました。

村名の由来は、この地域に伝わる古代以来の広域地名「横山」にあります。古くは万葉集に「多摩の横山」あるいは「眉引きの横山」として詠まれています。以来、今日に至るまで連綿と受け継がれてきた地名です。



横山地区の位置

横山地区には、船田石器時代遺跡や桐田遺跡があり、原始・古代から人々が生活していたことがわかります。散田町にある高宰神社の境内には、宝暦9年(1759年)に千人頭たちが寄進した灯籠が一对残されており、千人同心の守護神として敬われていたようです。また、狭間町では、戦国時代から続くといわれている伝統芸能「狭間の獅子舞」が現在も舞われています。そのほか、市民主体の祭りも盛んで、八王子いちょう祭り、めじろ台祭りや長房ふれあい端午まつりなど各地域の特色あるお

祭りが行われています。

長房町には東日本唯一の陵墓地である「武蔵陵墓地」があります。

## イ キーワード

### 横山の遺跡と遺物

横山地区には、縄文時代の船田石器時代遺跡と梶田遺跡があります。このほかには、弥生時代後半から古墳時代の集落跡がある船田遺跡や神谷原遺跡、戦国時代末に築かれた八王子城の山城と考えられている出羽山砦跡（城山手一丁目）など、縄文時代から戦国時代までの遺跡があります。梶田遺跡からは多数の縄文土器とともに多くの土偶が出土しています。またジョッキの形をした小型の深鉢が日南田遺跡から出土しており、縄文時代の人々の生活の様子をうかがうことができます。弥生時代の遺物では、中郷遺跡から都内で2例目となる小銅鐸が出土しています。



ジョッキ形深鉢

### 東日本唯一の陵墓地

大正15年（1926年）12月に大正天皇が崩御し、元号は昭和に改められました。昭和2年（1927年）1月3日に東京府南多摩郡横山村・浅川村・元八王子村の御料地を「武蔵陵墓地」とすることが公表され、大喪の礼が2月7日と8日に行われました。大正天皇陵は「多摩陵」として2月13日から一般参拝が許可されると、全国から多くの参拝者が訪れ、八王子は全国にその名が知られることとなりました。多摩陵造営を契機に高尾山や多摩陵周辺が観光地として注目されるようになり、参拝客・観光客のために京王御陵線や武蔵中央電気鉄道（路面電車）が開通しました。

平成2年（1990年）には、昭和天皇の御陵「武蔵野陵」、さらに平成13年（2001年）には香淳皇后の陵墓「武蔵野東陵」がそれぞれ造られました。甲州街道から御陵に至る参道には南浅川橋が架かり、その先にはケヤキ並木が続いています。また、陵墓地内には北山杉が植えられ、荘厳な雰囲気を感じられます。甲州街道のイチョウ並木は、多摩陵の完成を記念して昭和4年（1929年）に宮内省（現宮内庁）により植栽されたものです。



昭和天皇陵「武蔵野陵」（武蔵陵墓地）



## 横山の信仰と伝統文化

山田町には、創建が康応2年（1390年）と伝えられる<sup>こうおんじ</sup>廣園寺があります。一般には「山田の本坊」の名で知られ、天正18年（1590年）の八王子城合戦の兵火を被り堂宇を焼失しましたが、その後再建されて現在に至っています。また、狭間町の高楽寺には、天明年間（1781～89年）に当時の住職了弁の発願で五穀豊穰、悪病平癒を祈願して造られたと伝えられる高楽寺横穴石仏群があります。散田町の高宰神社は、かつては千人同心からの崇敬も集めていたようです。現在でも地域の人々から崇敬され、祭礼が行われています。



狭間の獅子舞

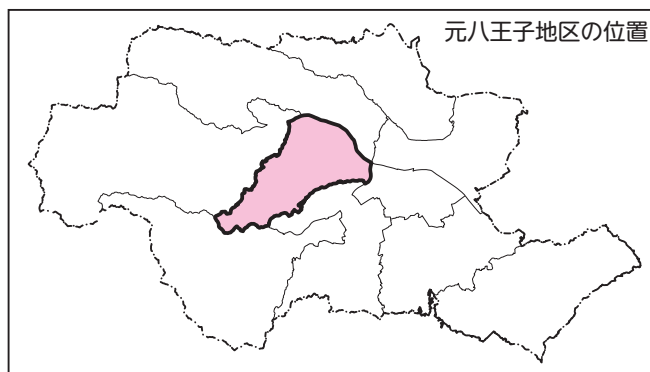
現在の高尾町の氷川神社に奉納されていた獅子舞は、明治5年（1872年）の行政区変更に伴って、現在の狭間町の御嶽神社に移り、「狭間の獅子舞」として継承されています。この獅子舞の歴史は古く、天正18年（1590年）に、八王子城主の北条氏照から獅子頭を賜ったことから始められたといわれています。

## (4) 元八王子地区

### ア 地区の概要

本市の中西部に位置する旧元八王子村の区域です。旧元八王子村は、昭和30年（1955年）に八王子市と合併しました。

戦国時代末期に北条氏照が築いた八王子城があり、城下には横山・八日市・八幡の三宿がありました。宿は八王子城の落城に伴い現在の市街地に移転し、江戸時代の八王子十五宿に引き継がれました。このことから、この地は、「元八王子」と呼ばれるようになりました。



元八王子地区には、中世から続くといわれる「四谷の<sup>りゅうずまい</sup>龍頭舞」や、近世から始まった諏訪神社の「まんじゅう祭」などの祭礼が継承されています。また、平成24年（2012年）からは「元八王子北條氏照まつり」が行われています。

## イ キーワード

### 北条氏照と八王子城

戦国時代末期、小田原を本拠地とした戦国大名北条氏康の三男氏照は、領国西側の守りとなる八王子城を築きました。天正18年(1590年)、豊臣秀吉によって送り込まれた、前田利家・上杉景勝らの数万といわれる軍勢から激しい攻撃を受け、八王子城は6月23日に落城しました。約400年の時を経て発掘調査が行われた城跡では、御主殿やそこに続く虎口などの復元が行われています。また、ベネチア産レースガラス器の破片や中国製の染付皿、国産陶器などが出土しており、当時の戦国武将の豊かな生活ぶりがうかがえます。



八王子城跡

元八王子町の宗関寺そうかんじは延喜年間(901～923年)の草創といわれ、北条氏照によって永禄7年(1564年)に再興されたといわれます。しかし八王子城落城の時に全焼し、天正18年(1590年)に朝遊山宗関寺として再興され、明治25年(1892年)に現在の場所に移築されました。氏照の百回忌に際し、氏照家臣の子孫により「北条氏照および家臣墓」が寺の近くに建立され、境内には八王子城の戦死者を追善供養するために寄進された「宗関寺銅造梵鐘ぼんしょう」があります。

### 元八王子の信仰と伝統文化

建久2年(1191年)に鎌倉の鶴岡八幡宮の旧神像を梶原景時が拝領し、八幡神社かんじょうを勧請したと伝わっています。参道の途中に、勧請時に植えられたと伝えられる梶原杉と呼ばれたスギがあり、長く神木として崇敬されていました。昭和47年(1972年)に枯死してしまいましたが、幹の一部を年輪標本として郷土資料館で展示しています。



四谷の龍頭舞

諏訪町の諏訪神社では「まんじゅう祭」が毎年開催されています。由縁は、諏訪神社の祭礼が行われる日に家ごとでまんじゅうを作り、それを食べると病気をしないと言いつたことによります。そして、300年以上前から雨乞い祈願として舞われているといわれる伝統芸能「四谷の龍頭舞」やお囃子が現在も奉納されています。

## 元八王子の水風景

元八王子地区の北端を流れる浅川は陣馬山を源流として、城山川・南浅川と合流して八王子盆地を東流しています。浅川左岸では伏流水によって湧き水が現れやすくなっていて、<sup>かのう や えのまいけ</sup>叶谷榎池や横川弁天池湧水は、八王子湧水めぐりの8湧水の内に数えられています。横川弁天池は水田の用水として利用されていました。

陣馬街道と南浅川が交わる一帯は<sup>されきそう</sup>砂礫層の下を水が流れていたことから、江戸時代は「水無川」と呼ばれていました。これが「水無瀬橋」の名前の由来となっています。この付近からの高尾山の眺めは、浅川の中流域にサイクリングやウォーキングのために整備した浅川ゆったりロードの景観の一つとして、市民に親しまれています。



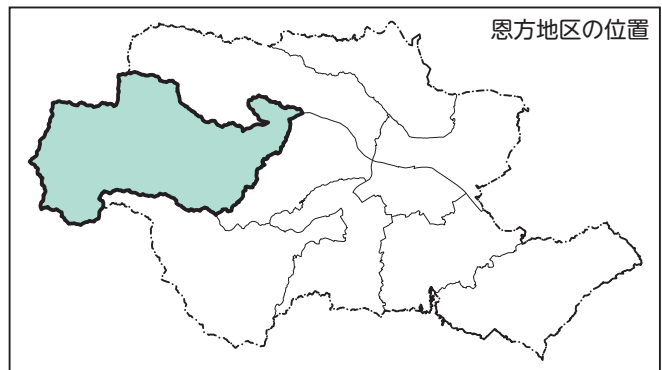
横川弁天池湧水

## (5) 恩方地区

### ア 地区の概要

本市の西部に位置する旧恩方村の区域です。旧恩方村は、昭和30年(1955年)に八王子市と合併しました。

恩方地区を東西に貫く陣馬街道は、古くは案下道、恩方街道、甲州裏街道、佐野川往還とも呼ばれていました。中世には、地区の東寄りを鎌倉街道山の根の道が南北に走っていました。地区東部の丘陵は恩方丘陵と呼ばれています。



恩方地区の位置

恩方地区には、大石氏の居城とされる浄福寺城跡や、八王子城の支城と考えられる小田野城跡(伝小田野屋敷跡)などがあります。また、甲州口警備のために上恩方村(現上恩方町)<sup>くちどめぼんしよ</sup>には口留番所が設けられていました。

上恩方町には、山々に沈む夕やけの情景を描写した童謡「夕焼小焼」にちなんだ「夕やけ小やけふれあいの里」があります。また、小津町では、古民家や耕作放棄地の再生など、市民による活動が行われています。



## イ キーワード

### 大石氏と浄福寺城

室町時代に武蔵守護代を務めたとして知られる大石氏は、関東が戦乱の時代に入るとともに自らの支配地を拡大させ、現在の下恩方町に浄福寺城（松竹城、案下城、新城ともいう）を築きました。大永5年（1525年）に大石道俊が「城福寺（浄福寺）」を再興し、奉納した棟札があることから、このころまでに八王子市域に進出していたことがわかります。大石氏は新たな拠点として高月城を築城し、さらに滝山城も築城したと思われています。また、大石氏が建立に関わったと伝わる寺社も建てられています。



浄福寺城跡

浄福寺城跡のある下恩方町には「下原刀匠康重鍛刀の地」や「下原刀鍛冶発祥の地」などの下原鍛冶に関わる碑が建てられています。下原鍛冶の起源は文亀・永正年間（1501～21年）に刀鍛冶の山本但馬周重が鎌倉より移住し、下原（現下恩方町）で鍛刀を始めたことによるといわれています。

### 恩方の信仰と伝統文化

下恩方町の心源院には、織田氏の進攻により八王子に逃れてきた武田信玄の娘松姫<sup>まつひめ</sup>が住職の弟子となって出家し、信松尼<sup>しんしょうに</sup>の法名を賜ったという話が伝わっています。

下恩方町には八王子車人形の西川古柳座<sup>にしかわこりゅうざ</sup>があります。八王子車人形は、文政8年（1825年）に現在の埼玉県飯能市に生まれた初代西川古柳（山岸柳吉）が考案したもので、「ロクロ車」という底に3つの車輪がついた箱に腰かけて、一人で一体の人形を遣う人形芝居です。

上恩方町の「上案下のセエノカミ」は、正月の伝統行事として受け継がれています。正月7日に町内の各戸から出された正月飾りなどを、竹や縄で作った「セエノカミ」にまとめ、14日にたき上げる行事です。たき上げる際には、人々が火を囲んで、無病息災などを祈願し、「マユダマ」と呼ばれるお団子を焼きます。



上案下のセエノカミ

伝統芸能として小津町の「小津の獅子舞」<sup>おつ</sup>が現在も伝わっています。獅子舞は、およそ400年前に、五穀豊穡や雨乞いを祈願するために始められたといわれています。このほか、御嶽神社の百八灯などの年中行事が行われています。



## 夕焼け小焼けの原風景

恩方地区は、童謡「夕焼け小焼け」ゆかりの里です。作詞者の<sup>なかむらう</sup>中村雨紅は恩方村上恩方（現上恩方町）の出身で、生誕地近くの宮尾神社には「夕焼け小焼けの碑」が建てられています。陣馬街道沿いには、日本の原風景ともいえる山あいの豊かな自然の中にお寺が点在し、歌詞の情景を連想することができます。

平成8年(1996年)には、農作業への理解と地域の振興を目的に「夕やけ小やけ文化農園」が開園しました。その後、平成12年(2000年)に、観光施設として「夕やけ小やけふれあいの里」に改称し、現在も市民に親しまれています。



夕焼け小焼けの碑（宮尾神社）

## 恩方の生業

「<sup>あんげずみ</sup>案下炭」は、上恩方町の<sup>だいご</sup>醍醐・<sup>かみ</sup>上案下・<sup>しも</sup>下案下・狐塚などの地域で製炭された炭のことで、寛保3年(1743年)には「案下炭」の名称が使われています。江戸時代には八王子周辺の炭は江戸へ供給されるようになり、「八王子炭」「八王子の炭焼」といわれていました。恩方村の製炭最盛期は昭和10～15年(1935～40年)ごろで、現在は炭焼き体験や案下炭再現の取組などが行われています。

農業面では戦後に畑の作付けの変更が試みられ、キュウリ・ナス・インゲン・トマトなどが栽培され、出荷されていました。昭和30年代前期になるとイチゴ栽培が導入され、昭和45年(1970年)ごろには「観光イチゴ園」に取り組み、さらに、昭和54年(1979年)には陣馬リンゴの生産が始められ、「東京でリンゴ」と話題になりました。平成9年(1997年)からはブルーベリーの栽培が行われるようになり、現在の特産品になっています。また、ヤマメ・ニジマスなどの養殖や放流も行われています。



炭焼きの準備

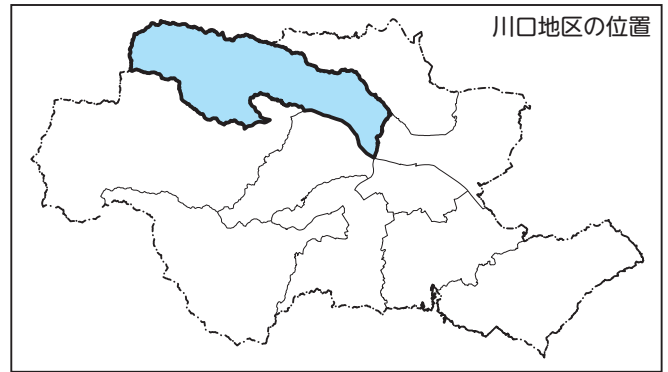
## (6) 川口地区

### ア 地区の概要

本市の北西部、川口川の上・中流域に位置する旧川口村の区域です。旧川口村は、昭和30年(1955年)に八王子市と合併しました。

東部の加住南丘陵と、中央部の川口丘陵が南北にならび、2つの丘陵の間を流れ

る川口川に沿った東西に長い地区となっています。平安時代に作られた辞書『和名類聚抄』<sup>わみょうるいじゆしやう</sup>に載っている川口郷は、川口地区に所在した地名であろうといわれています。『武蔵名勝図会』<sup>むさしめいしやうずえ</sup>に記載されている川口氏の館跡と伝承される場所には「川口兵庫介館跡」<sup>かわぐちひらうけかたあと</sup>碑が建てられています。この地区は明治時代には自由民権運動が高揚した地域でもありました。



川口地区には、中原遺跡<sup>なかはら</sup>や檜原遺跡<sup>ならはら</sup>、宮田遺跡<sup>みやた</sup>といった多くの遺跡が発掘されています。また、この地区には古くからそれぞれに伝わる3つの獅子舞があり、現在も継承されています。

## イ キーワード

### 川口の遺跡と遺物

川口地区には、縄文時代の宮田遺跡、中原遺跡、檜原遺跡、弥生時代の終わりから古墳時代前半の原屋敷遺跡<sup>はらやしき</sup>や犬目甲の原遺跡<sup>いぬめこう</sup>などがあり、古くから郷土史家によって調査が行われてきました。川口川左岸には、河岸段丘上に川口古墳<sup>かわぐち</sup>や鹿島古墳<sup>かしま</sup>など、市内では調査例の少ない小型の円墳が築かれています。宮田遺跡からは子どもを抱いた「子抱き土偶」、檜原遺跡からは土偶の中を空洞にして鳴子を入れた「土鈴形土偶」<sup>どれいがた</sup>など、珍しい形をした土偶が出土しています。



子抱き土偶（複製）と土鈴形土偶

### 川口の信仰と伝統文化

川口地区では、貞治3年（1364年）から始まったと伝えられている「今熊神社の獅子舞」、江戸時代に始まったと伝えられる「田守神社の獅子舞」「山入の彫獅子舞」<sup>さきざら</sup>の3つの獅子舞が現在も舞われています。川口地区の西端にある今熊山は、行方不明者や家出人などを呼び戻すことができるという御利益があるとされていることから、別名、「呼ばわり山」といわれており、それにまつわる様々な伝承が残されています。



田守神社の獅子舞

## 川 口 の 生 業

嘉永6年(1853年)に下川口村(現川口町)で生まれた河井宗兵衛は麦の品種改良を行い、耐寒性などに優れた「宗兵衛裸麦<sup>そうべえはだかむぎ</sup>」を作りだしました。当時は主食として麦が重視されていたことから「宗兵衛裸麦」は優良品種とされ、最盛期には東京府の裸麦栽培面積の42パーセントを占め、昭和17年(1942年)に東京都の奨励品種に指定されました。その後の食糧事情の変化のために生産されなくなりましたが、現在、復活栽培が行われています。



川口エンドウ

川口地区で生産されていた川口エンドウは、昭和40年代に畑の宅地化や収穫期間が短く手間がかかることから急速に姿を消していきましたが、平成26年(2014年)、江戸東京野菜<sup>\*</sup>に認定され、地元の生産者を中心に「川口エンドウ普及プロジェクト」が発足し、生産活動が始まっています。

上川町の北沢谷戸には「上川の里」と呼ばれる緑地が整備・保全され、現在は「上川の里特別緑地保全地区」に指定されて、棚田や遊歩道の整備などが進められています。

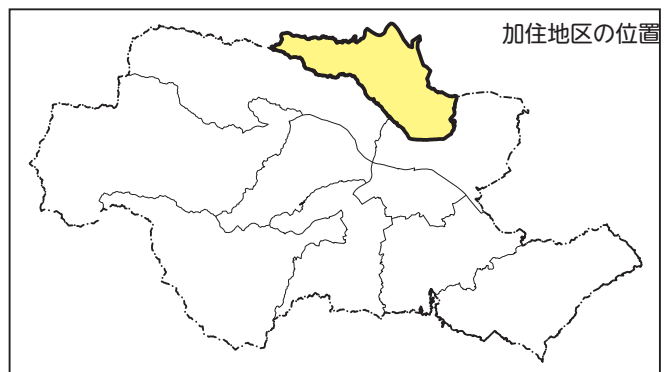
## (7) 加住地区

### ア 地区の概要

本市の北東部に位置する、旧加住村の区域で、<sup>やじ</sup>谷地川中流部の両岸にまたがっています。旧加住村は、昭和30年(1955年)に八王子市と合併しました。

中央部には、滝山街道及び新滝山街道が通っています。南部の加住南丘陵では、原始から中世に至る時代の遺跡が発掘されています。北部の加住北丘陵には、大石氏と北条氏照の居城であった滝山城跡があります。

また、江戸時代初めの書物『毛吹草<sup>けふきぐさ</sup>』には、「滝山、横山<sup>つむぎ(織)</sup>紬島」という名前の織物が出ていることから、そのころ既にこの地で、織物が織られていたとも考えられます。



加住地区の位置



## イ キーワード

### 加 住 の 遺 跡 と 遺 物

寺前遺跡からは市内で初めて旧石器時代の石器が見つかっています。

多摩川の支流である谷地川の上中流域では古代の鍛冶に関連する遺跡が確認されています。<sup>くぬぎやつ</sup> 梶谷遺跡では複数の住居跡から鉄塊や鉄製の<sup>やじり</sup> 鎌、帯金具など多様な金属製品が出土しています。住居跡近くにあった<sup>はいさいば</sup> 廃滓場からは<sup>てっさい</sup> 鉄滓や羽口などが出土しており、鍛冶を生業としていた集落の存在が想定されます。<sup>みなみやつ</sup> 南谷遺跡では斜面地を切り崩して屋敷が造られた中世の遺構が見つかっています。



碗形鉄滓（梶谷遺跡）【東京都教育委員会所蔵】

### 中 世 城 郭 滝 山 城

加住北丘陵に築かれた滝山城は、全国でも有数の中世城郭です。自然の地形を利用して堀や土塁などが計画的に配置され、防御性を高めていることがよくわかります。近くには大石氏が築城したと伝わる高月城跡もあります。

滝山城の南には東西に滝山街道が通り、道筋に滝山城下が形成され、横山・八日市・八幡宿の地名が伝えられています。鎌倉道といわれる南北をつなぐ道筋の存在も伝わっており、戦国時代には滝山城を中核として交通の要衝となっていたことがわかります。滝山城跡の東には北条氏照開基の少林寺があります。



滝山城跡

滝山城跡は現在、都立滝山公園となり都内有数の桜の名所になっています。

### 加 住 の 信 仰 と 伝 統 文 化

梅坪町の伝統芸能として、戦国時代から舞われてきたとされる「梅坪の<sup>ささら</sup> 獅子舞」がありましたが、昭和44年（1969年）の天神神社落慶式での奉納を最後に休止しています。加住町の龍源寺には、室町時代に建てられた「龍源寺の文安の板碑」があり、銘文から豊作を祝って月を祀る<sup>つきまち</sup> 月待供養の際に建てられたことがわかります。



梅坪の獅子舞の獅子頭

高月町滝地区では、伝統行事「福の神」が行われています。毎年1月7日に、この春から小学校へ入学する子どもから小学校6年生までの子どもたちが、背中に正

月のお飾りを背負い、福俵を持って家々を訪れ、福俵を家の中へ投げ込んだり引き寄せたりしながら、家に福の神が入り貧乏神を追い出す唄を唄うという、子どもたちが主体の珍しい年中行事です。

宮下町では、重松流を伝承している囃子連があり、滝山城跡桜まつりや若松神社の祭礼などで演奏されます。

## 加 住 の 生 業

良質な水環境に恵まれた高月町には、都内最大の田園が広がり、八王子の米どころとなっています。農業は、米・野菜・果物・花き・畜産・しいたけなどとの複合経営が特徴です。「TOKYO X（東京エックス）」という東京の地域特産豚肉の生産や、アイガモを利用した稲作、八王子ショウガ、パッションフルーツの栽培など意欲的な取組も行われています。

また、高月町には樹齢 400 年と推定される「高月のクワ」があります。近代以降、織物業や養蚕業は盛衰を経験しましたが、高月町では伝統工芸品として国や都の指定を受けた「多摩織」を織る工場が稼働し、加住町では現在も養蚕農家による繭の生産・出荷が続けられています。



高月の田園風景

## (8) 由井地区

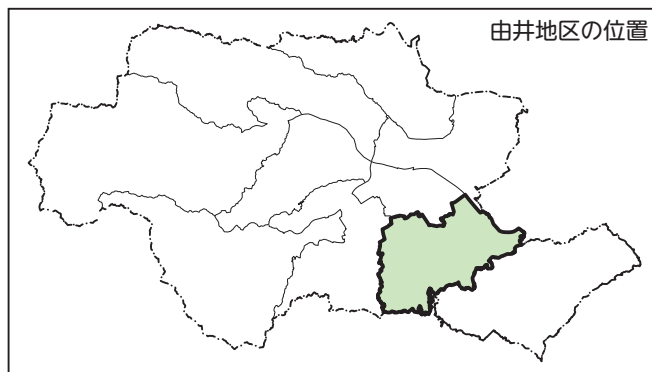
### ア 地区の概要

本市の南東部に位置する旧由井村の区域で、南部には多摩丘陵が東西に横たわっています。旧由井村は、昭和 30 年（1955 年）に八王子市と合併しました。

「由井」という村名は、江戸時代の領名から採られています。元をたどると、古代の由比（柚井・油井）がその由来です。

由井地区では、小比企向原遺跡や滑坂遺跡など多くの遺跡が確認されています。古代には御殿山周辺には多くの窯が造られ、武蔵国府・国分寺などで使われる瓦や須恵器を大量に生産していました（御殿山窯跡群）。

由井地区には、古くから七国峠や御殿峠を越えて南北をつなぐ道が通っており、現在も古道として残っている場所があります。



かつては農家の副業であったメカイやムシロづくりは生業としては衰退しましたが、その技術は今でも継承されています。広大な丘陵地を利用して酪農が営まれ、乳牛の飼育・乳製品の生産が行われています。西部の小比企丘陵は、野菜生産団地とも呼ばれ市内農業生産の主要な地域となっています。

## イ キーワード

### 由井の遺跡と遺物

由井地区の多摩丘陵には多くの縄文時代の遺跡があります。中でも滑坂遺跡なめさかや郷田原遺跡こうだはら、小比企向原遺跡こびきむこうはらでは多くの住居跡が見つかっており、縄文時代中期の集落跡とされています。古代の遺跡には武蔵国府で使用する瓦や須恵器などを焼いた御殿山窯跡群ごてんやまがあり、多くの遺物が出土しています。この窯跡群は、国府への近さ、窯を設けやすい立地、燃料としての木材の確保のしやすさなどからこの地が選ばれたものと考えられています。



発掘された窯跡（御殿山窯跡群）

### 南北の交通の要衝

由井地区には、古代から人の往来があり、「峠」とつく地名が今でも残っています。現在の国道16号線の「御殿峠」の西側には、かつての古道が残されています。この古道の峠は、古くは峰の上から杉の木立があったことから「杉山峠」と呼ばれていました。この御殿峠古道は、永禄12年(1569年)の甲斐武田軍による関東進攻の折、滝山城を攻めた後に武田軍が北条氏の本拠の小田原を目指して南下した際に通ったとも伝わる道です。御殿峠の西側には「七国峠」を通る古道があり、明治時代には群馬県や山梨県方面から八王子町を経て鎌水村あるいは御殿峠を経由し、横浜へ絹を運ぶ浜街道の脇道としても利用されました。



野猿峠の水のみ場

由井地区と由木地区の間には猿丸峠さるまる（現野猿峠）があり、野猿街道が通っています。

御殿峠の北側の片倉町には応永年間(1394～1428年)に大江氏一族の長井氏が築城したと伝わる片倉城跡があり、現在は片倉城跡公園として整備されています。ここでは、都内では少なくなったカタクリの群生やヤマブキソウなどの草花が見られ、また、多くの彫刻作品が展示されています。



## 由 井 の 生 業

由井地区では、農業の副業としてメカイづくりやムシロづくりが行われていました。メカイは目籠<sup>めかこ</sup>の南多摩地域での呼び方で、宇津貫<sup>うづつ</sup>地域でのメカイづくりは文化年間（1804～18年）以前にさかのぼるといわれています。

北野町は、かつては水田の多い地域でした。京王線北野駅前には昭和56年（1981年）に「田植えの像」が建てられ、開墾と田畑の恵みが人々の生活を築いてきた歴史を今に伝えています。

小比企丘陵では、現在でもダイコン、カブ、コマツナ、キュウリ、トマト、ナス、ハクサイ等が栽培されています。養豚・花き栽培も盛んで、酪農も行われており、市民に親しまれている牧場があります。



田植えの像

## 由 井 の 信 仰 と 伝 統 文 化

打越町には打越弁財天があります。弁天堂は、天正年間（1573～92年）の開創と推定され、古くから養蚕守護や技芸上達、商売繁盛の神として広く信仰を集めてきました。弁財天は、蚕の大敵である鼠<sup>ねずみ</sup>を退治する蛇を御神体とし、打越弁財天は、「絹の道」にも近いことから、八王子市域はもとより関東近県から多くの信仰を集めました。古くから続く祭礼は、現在も5月に執り行われています。



打越弁財天

片倉城跡内にある住吉神社や小比企町にある稲荷神社の祭礼などでは地元の囃子連が演奏しています。

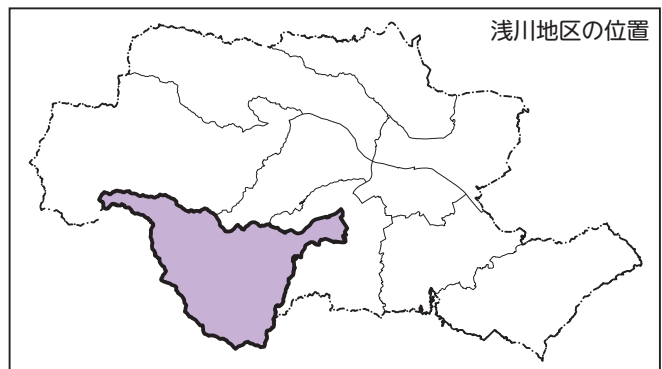
## (9) 浅川地区

### ア 地区の概要

本市の南西部に位置する旧浅川町の区域で、関東山地の南東端に当たります。旧浅川町は、昭和34年（1959年）に八王子市と合併しました。

旧浅川町のほぼ全域が都立高尾陣場自然公園になっており、豊かな生態系が保たれています。

江戸時代には、甲州道中が小仏峠<sup>おぼら</sup>を越えて小原宿（現相模原市）へと通じていましたが、車両の



浅川地区の位置



通行が困難な道であったため、明治21年(1888年)に大垂水峠おおだるみを通る新道が開通し、現在の甲州街道(国道20号)になりました。

高尾町にある高尾山薬王院は、古くから霊場として知られ、多くの信者が参拝に訪れています。また高尾山は、現在、登山者数が世界一といわれ、大いににぎわっています。高尾山の麓には氷川神社が鎮座し、獅子舞が継承されています。

## イ キーワード

### 東西南北の交通の要衝

浅川地区は、東西に貫く甲州道中と、南北に縦断する鎌倉街道の支道(山の根の道)が交差し、古くから交通の要衝として発展してきました。

永禄12年(1569年)に武田信玄が小田原北条氏を攻める際に、武田軍の別働隊が滝山城を攻めるために小仏峠から侵入し、とどり廿里付近で北条方と合戦になったといわれています。小仏関は、初めは小仏峠にありましたが、天正8年(1580年)に駒木野へ移ったといわれています。

近代になると、高尾山や多摩陵と八王子市街地を結ぶ路面電車が開通し、多くの観光客が訪れるようになりました。現在も甲州街道と高尾街道、中央道と圏央道がそれぞれ交わる交通の要衝となっています。



小仏関跡

### 浅川の信仰と伝統文化

高尾山は山岳信仰の修験道の山として、古くから信仰の対象とされてきました。天平16年(744年)に、聖武天皇の勅命を受けた行基菩薩が高尾山薬王院を開山したといわれ、室町時代には、京都やましろのくに山城国醍醐山の俊源大徳が中興したと伝えられています。以降、薬王院では飯縄大権現いづなだいこんげんを本尊とする信仰が今に続いています。戦国時代には、北条氏照が戦いの守護神としあつ篤く信仰したと伝わっています。江戸時代には、江戸への本尊の出開帳や配札によって関東一円から広く信仰を集めました。富士山信仰とも結びつき、「富士山に登る前にまず高尾山に登る」という両山講も民衆の間に広まりました。

また、明治5年(1872年)に狭間の獅子舞からわかれた「氷川神社の獅子舞」は、現在も氷川神社と熊野神社に、五穀豊穰・悪魔退散を祈念して奉納されています。



氷川神社の獅子舞

## 豊かな自然

関東山地の南東に位置する高尾山は、明治の森高尾国定公園に指定されています。また、高尾山を代表する動物としてムササビが知られています。その姿は江戸時代に書かれた『武蔵名勝図会』にも描かれるなど、古くから人々に親しまれてきました。

高尾山は、暖温帯の常緑広葉樹林と冷温帯の落葉広葉樹林の境界に位置し、153科約1,600種の植物が自生し、また、日本三大昆虫生息地の一つに数えられています。南高尾山稜や北高尾山稜にも連なる周辺環境とともに、ハイキングや自然観察の場にもなっており、高尾梅郷や駒木野庭園など、自然を活用した地域づくりや庭園が整備されています。



小仏のカゴノキ

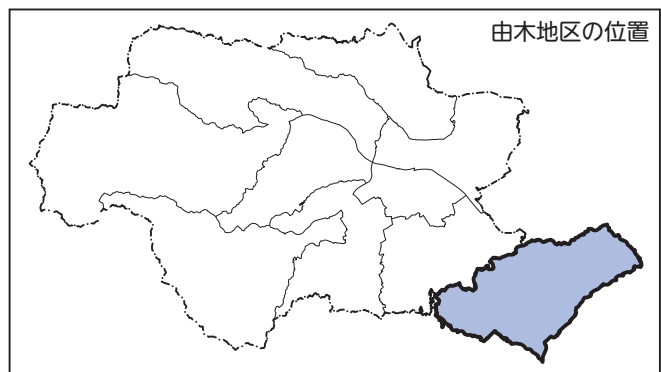
## (10) 由木地区

### ア 地区の概要

本市の南東部に位置する旧由木村の区域で、多摩丘陵が東西に横たわっています。旧由木村は、昭和39年(1964年)に八王子市と合併しました。

由木という地名は、古くは「柚木」とも書き、12世紀ごろに八王子市域に成立した船木田荘に「由木郷」という地名も見られます。平安時代の末ごろから鎌倉時代の初期にかけて日奉党の一族由木氏が住んでいたと伝わっています。

丘陵を水源とする小河川が、数多くの谷戸を形成し、谷戸田が営まれるなど、古くから人々の生産と生活の場を提供してきました。都市近郊の農村として、養蚕やわら細工、メカイづくりなどが副業として営まれていました。昭和40年(1965年)以降の多摩ニュータウン開発によって大規模な宅地造成が行われましたが、一方で現在も里山の原風景が見られる地区でもあります。



### イ キーワード

## 由木の遺跡と遺物

由木地区では、多摩ニュータウンの開発に伴い発掘調査が行われ、多くの遺跡が

発見されました。旧石器時代の遺跡としては、八王子最古の遺跡である多摩ニュータウンNo.402 遺跡（松木）が確認されています。この遺跡からは石器を作る際の原石である石核やナイフ形石器などが出土し、八王子市域で最古の約3万5000年前の人々の暮らしの痕跡が確認されています。

中山の白山神社はくさんの境内からは、仏教の教えや経典を後世に伝えるための経巻を容器に入れて埋納した経塚が見つっています。この時に見つかった経巻の奥書には「船木田御庄」と書かれており、この地域が船木田ふなきだのしょう荘という荘園に含まれていたことがわかります。



中山白山神社経塚群出土品

## 谷戸の自然と生業

由木地区の丘陵から流れ出て大栗川にそそぐ小河川は、特徴的な谷戸を形成しています。谷戸の森林と豊富な水に恵まれ、自然と人々の生活が共生する、いわゆる里山風景が作り出されました。由木地区の村々では古くから農耕に加えて炭焼き、養蚕、糸取りなどを生業としてきました。絹の道の近くには「小泉家屋敷」があり、養蚕農家の様相をよく残しています。また、農家の副業で作られていたメカイ、ナワ、ムシロは由木地区の特産品でした。明治25年（1892年）、井草甫三郎によって多摩地域に初めて酪農が導入され、由木村は酪農の先駆村として知られるようになりました。由木地区の酪農は現在も続いています。



小泉家屋敷

一方で、大規模なニュータウン開発が進められる中で姿を消した谷戸も多くあります。このため、谷戸の風景を保全するために里山公園などが整備されています。また、この地区の寺社等の敷地にはいくつもの天然記念物（樹木）が残されています。

## 絹の道

由木地域には、幕末から明治の初めにかけて八王子から横浜に輸出用の生糸を運んだ浜街道や神奈川往還と呼ばれた道があります。その一部は保存されて「絹の道」という愛称で呼ばれ、文化庁選定「歴史の道百選」に選ばれています。この道は当時の西洋の生糸需要に応え、往路は八王子宿から横浜に生糸を運び、復路は西洋の学問や思想をもたらす役割を果たしました。また、横浜から外国人が八王子地域を訪れる道でもありました。



絹の道



当時、生糸の取引によって鑓水の養蚕に関わった農家は生糸商人として栄え、巨万の富を築き、後に地元の研究者によって「鑓水商人」と名付けられました。鑓水商人の一人、八木下要右衛門<sup>やぎしたようゑもん</sup>の屋敷跡には現在、絹の道資料館が建てられています。

## 由木の信仰と伝統文化

越野の越野会館には「裳掛<sup>もが</sup>けの観音（木造聖観音菩薩坐像）」が祀られています。この菩薩座像は、明治時代初期の廃仏毀釈<sup>はいぶつきしやく</sup>で廃寺となった導儀寺から今の場所に移されたものです。同会館には、二頭の獅子頭「オシシサマ」が保存されています。かつては、年に一度、正月ごろから風邪除けの神様として一頭ずつ越野の上（吹上）と下（中村・下根）の各家で順に一晩祀り、翌日、次の家に回したといえます。



越野のオシシサマ

由木地区には4つの囃子連があります。鑓水の囃子は、寛政元年（1789年）に神田明神の宮司一族が生糸商人の屋敷に泊まって村人に教えたことに始まるとされ、鑓水の諏訪神社<sup>すわ</sup>や八王子まつりで演奏されています。南大沢の囃子は、大正時代初期からあったといわれていますが、現在の囃子は昭和25年（1950年）に町田市小山から習ったもので、南大沢の八幡神社の祭礼や八王子まつりで演奏されています。大塚の囃子は江戸時代末期に伝授されたといわれており、大塚の八幡神社の祭礼や元旦祭などで演奏されます。上柚木の囃子は明治時代にあったものが一時期衰退し、戦後、北野町から習ったもので、上柚木の愛宕神社<sup>あたご</sup>の祭礼や八王子まつりなどで演奏されています。

## 4. 八王子の歴史文化の特徴

地区ごとに整理した36の“地域の歴史文化を知るためのキーワード”は、次のとおりです。

このほか、市域には石造物が非常に多く残っていることや、地域に残る土地の名前には歴史の痕跡が見られることがわかりました。

これらのキーワードを俯瞰的に捉え、その共通性や特性の顕著さが認められるものについて整理・検討すると、次のような八王子の歴史文化の特徴を捉えることができます

### 地域の歴史文化を知るためのキーワード

**旧八王子地区**

- ①甲州街道の宿場町
- ②千人同心ゆかりのまち
- ③絹と織物
- ④旧八王子の信仰と伝統文化

**小宮地区**

- ⑤小宮の遺跡と遺物
- ⑥多摩川の渡し場
- ⑦織物の生産
- ⑧小宮の信仰と伝統文化

**横山地区**

- ⑨横山の遺跡と遺物
- ⑩東日本唯一の陵墓地
- ⑪横山の信仰と伝統文化

**元八王子地区**

- ⑫北条氏照と八王子城
- ⑬元八王子の信仰と伝統文化
- ⑭元八王子の水風景

**恩方地区**

- ⑮大石氏と浄福寺城
- ⑯恩方の信仰と伝統文化
- ⑰夕焼け小焼けの原風景
- ⑱恩方の生業

**川口地区**

- ⑲川口の遺跡と遺物
- ⑳川口の信仰と伝統文化
- ㉑川口の生業

**加住地区**

- ㉒加住の遺跡と遺物
- ㉓中世城郭 滝山城
- ㉔加住の信仰と伝統文化
- ㉕加住の生業

**由井地区**

- ㉖由井の遺跡と遺物
- ㉗南北の交通の要衝
- ㉘由井の生業
- ㉙由井の信仰と伝統文化

**浅川地区**

- ㉚東西南北の交通の要衝
- ㉛浅川の信仰と伝統文化
- ㉜豊かな自然

**由木地区**

- ㉝由木の遺跡と遺物
- ㉞谷戸の自然と生業
- ㉟絹の道
- ㊱由木の信仰と伝統文化

## 八王子の歴史文化の特徴

### 原始・古代の遺跡が語る人々の営み

原始・古代の遺跡が八王子市域で数多く発見され、その数は都内最多。生活・文化の痕跡が今と重なる地域で存在し、子どもを抱いた土偶やイノシシをかたどった土製品など、珍しい出土品も多い。

- ⑤小宮の遺跡と遺物
- ⑨横山の遺跡と遺物
- ⑱川口の遺跡と遺物
- ⑳加住の遺跡と遺物
- ㉒由井の遺跡と遺物
- ㉓由木の遺跡と遺物

### 東西南北いにしえの道

中世には鎌倉、小田原、甲州などへ続く道が成立、近世以降は織物の一大集散地として八王子宿が甲州道中最大の宿駅に発展。さらに開港地横浜へとつながり、いにしえから現在まで交通の要衝となっている。

- ①甲州街道の宿場町
- ⑥多摩川の渡し場
- ㉓中世城郭 滝山城
- ㉗南北の交通の要衝
- ㉘東西南北の交通の要衝

### 中世の武士たちと「まちづくり」の礎

中世城郭が市内各地に成立、それを拠点に集落・道が形成される。氏照の支配下で滝山城・八王子城に城下町がつくられ、市も開かれるなど、人が集まり、まちを形成する基盤となった。

- ⑫北条氏照と八王子城
- ⑮大石氏と浄福寺城
- ㉓中世城郭 滝山城
- ㉗南北の交通の要衝

### 八王子宿と千人同心

八王子城落城後、八王子の治安維持に務めた千人同心が暮らす千人町。甲州道中の宿駅として、今の市街地の原型となった八王子十五宿。その後この地を中心として商業都市へと発展していった。

- ①甲州街道の宿場町
- ②千人同心ゆかりのまち

### 桑都八王子は織物のまち

古来、養蚕・絹産業が営まれ、近世から続く市では織物の商いが盛んに。周辺も機業地として栄え、紡績や染物も営まれ、「桑都」「織物のまち」として全国に知られる都市となった。

- ③絹と織物
- ⑦織物の生産
- ㉔谷戸の自然と生業
- ㉕絹の道

## 世界とつながった絹の道

横浜の開港により、生糸の流通路として、鑓水を通る浜街道がにぎわい、鑓水の養蚕家は生糸商となって財を築く。のちに浜街道は「絹の道」、生糸商は「鑓水商人」と呼ばれるようになる。

③④ 谷戸の自然と生業

③⑤ 絹の道

## 自然との共生で育まれた里

関東山地から流れ出る河川と、それによって形成された丘陵や谷戸、そこに暮らす人々の生業は自然との共生により成り立ち、地域の伝統・文化として今に受け継がれている。

⑭ 元八王子の水風景

⑰ 夕焼け小焼けの原風景

⑱ 恩方の生業

⑲ 川口の生業

⑳ 加住の生業

㉑ 由井の生業

③④ 谷戸の自然と生業

## 祈りのお山 高尾山の魅力

高尾山周辺には多様な種の動植物が生息し、研究も盛ん。奈良時代に寺院が開山し、多くの信仰を集めてきた。「多摩陵」造営を契機に御陵と高尾山が全国に知られる。今や世界から300万人が訪れる一大観光地となる。

⑩ 東日本唯一の陵墓地

③① 浅川の信仰と伝統文化

③② 豊かな自然

## 季節を彩る 年中行事と伝統文化

10の市町村が合併した八王子は、文化的にも都市と農村の両方の特性を併せ持つ。都市部では商業にまつわる祭礼や山車祭りが、農村部では五穀豊穡を願う祭礼や獅子舞、どんど焼きが伝統として伝わっている。火消しに伝わる木遣や祭りに欠かすことのできない囃子も継承されている。

④ 旧八王子の信仰と伝統文化

⑧ 小宮の信仰と伝統文化

⑩ 横山の信仰と伝統文化

⑬ 元八王子の信仰と伝統文化

⑰ 恩方の信仰と伝統文化

⑲ 川口の信仰と伝統文化

⑳ 加住の信仰と伝統文化

㉑ 由井の信仰と伝統文化

③① 浅川の信仰と伝統文化

③⑥ 由木の信仰と伝統文化

## 地名や石碑に残る地域の記憶

特定の地域や地区を問わず…

◇石塔・石碑など石造物が非常に多く残っている

◇地域に残る地名・字名には土地の歴史の痕跡を見ることができる

◇地域の呼称は、そこで暮らす人々の記憶や伝承として今に伝えられている



## まちの記憶 4

### うじてるくん



八王子城跡が平成18年(2006年)4月に「日本100名城」に選定されたことを受け、本市文化財課職員がデザインしたキャラクターの“うじてるくん”。

八王子のまちづくりの礎を築いた戦国時代の名将、八王子城主北条氏照をモチーフにしています。彼の肖像画は残されていませんが、北条家の軍事・外交面で活躍した氏照に親しみをもてるように、鎧兜を着用し、北条氏の家紋である「三つ鱗」を入れた陣羽織を羽織った、愛嬌のあるキャラクターにしました。八王子城跡のオフィシャルガイドボランティアが中心となった

「NPO法人八王子城跡三ツ鱗会」の皆さんによって着ぐるみも製作されました。

“うじてるくん”は、八王子城跡ガイダンス施設でのイベントや「元八王子北条氏照まつり」などでも活躍しています。市内のイベントで見かけたら、ぜひ声をかけてください。



「子ども手作り甲冑教室」の参加者と

## まちの記憶 5

### 大善寺のお十夜

大善寺は天正13年(1585年)、滝山城下に関山し、観池山往生院大善寺と号しました。

その後、慈根寺村(元八王子町)に移りましたが八王子城落城後、大横町に移転し、関東十八檀林の一つともなりました。

お十夜は、八王子城の落城の際の戦死者供養のため、天正19年(1591年)に始まったと伝えられています。

もともとは寺の十夜法要という宗教行事の一つでしたが、江戸時代末期になると、関東随一の十夜法要となって近隣の村々にも知られるようになり、さらに、明治時代末ごろから縁日が行われるようになり、昭和に入りサーカスなどでもにぎわいました。八王子や近在の人々にとって、一年の中でも特別な催し物の日でもありました。

しかし、昭和36年(1961年)の大和田町への移転によって、十夜法要と縁日は行われなくなり、

その後、昭和56年(1981年)に現在の大谷町に移転しました。

昭和58年(1983年)に十夜法要のみが復活し、その後、平成24年(2012年)になって「八王子お十夜実行委員会」が組織され、縁日を取り入れた大善寺のお十夜が、大横町からの移転以来約50年ぶりに行われ、以降毎年催されています。



昭和5年(1930年)のお十夜の光景